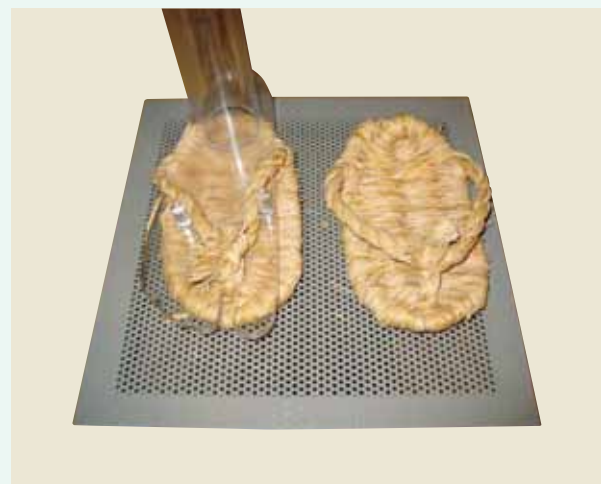


博物館への問い合わせより 足半(あしなか)について

足半とは、かかとの無い短い草履の一種です。昭和30～40年代まで、農村で使用されていました。見た目は、わら草履に似ていますが、比べてみると半分の大きさです。

足半の名前は、室町時代の史料で確認され、武家など戦場に関わる人々が使用していました。滑りにくく、かかとが無いので泥が飛び跳ねることもなく、足と履き物との間に砂や小石がつまることもありません。水中でも滑らず、鼻緒も切れにくく丈夫です。

最近、ダイエットスリッパとしてちょっとしたブームになっています。(小山)



お知らせ

◆夏休み期間中の休館日について

通常は毎週火曜日が休館日ですが、夏休み期間中は休館日はありません。夏休み終了後の9月1日が休館となります。また、9月13日～15日は特別整理期間として休館になります。

◆展示会「宮崎の海のいきもの展」のご案内

宮崎県の海で見られる多種多様ないきものたちを紹介する展示会です。水そう展示による魚の紹介や海の王者クジラの骨格標本等の展示を行います。中でも、『チリメンモンスター展示』は必見です。

※会期を変更いたしました。

■会 期：10月23日(土)～11月28日(日)
■観覧料：有 料

展示解説員の声



いよいよ夏到来。博物館は多くのご家族連れで賑わいます。そんなご家族に人気のスポットといえば、歴史展示室の『昭和30年代の文化住宅』。子どもさんには目新しく、大人の方には懐かしく、昭和の雰囲気を感じていただける場所です。

遠足などで来館される幼稚園児や小学生達に、この文化住宅について解説すると「テレビで見たことある!」と興味津々に見入ります。そんな子どもさん達が後日ご家族で来館され、私たちが解説したことを楽しそうに説明している様子を見かけると、とても微笑ましく、嬉しく思います。

私たち解説員も、ちびっこガイドさんに負けてはいられません。宮崎県の魅力を多くの方にお伝えしたいと思います。皆様のご来館をお待ちしております。(白坂)



ヒメヤマトオサガニ

森の通信



発行日/2010年7月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

チュニジア世界遺産

古代カルタゴとローマ展

～きらめく地中海文明の至宝～

会期変更

2010年
7月31日(土)
～9月26日(日)
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■観覧料
大 人 1,000円(800円)
小中高生 400円(200円)
※()は20名以上の団体または前売券

約2800年前、アルファベットを考案したフェニキア人によって建国された都市国家カルタゴ(今の北アフリカ地方)は、「地中海の女王」と称され、地中海貿易の中継地として繁栄を極めました。そして、地中海の覇権をめぐるローマ共和国とのポエニ戦争(前264～前146年)では、名将ハンニバルの活躍もありましたが、最終的にカルタゴは滅ぼされてしまいます。しかし、この地ではその後も、美しいモザイク芸術に代表される、ローマとカルタゴの伝統が融合した文化が築かれていきます。

この展示会では、世界遺産に登録されたカルタゴ遺跡群からの出土資料やチュニジア国立博物館所蔵の名品を通じ、ギリシャ・ローマ・カルタゴによって繰り広げられた古代地中海世界の歴史と文化を紹介します。モザイク画を含む、総数160点余にのぼる展示品の実に9割以上が日本初公開で、特に5m四方のモザイク画は世界初公開です。世界遺産カルタゴの輝ける歴史と文化に触れるまたとない機会です。

ミサキウマ観察会



串間市都井岬はミサキウマの繁殖地として国の天然記念物に指定されており、現在百頭余りのミサキウマが生息しています。

5月8日、都井岬小松ヶ丘において、「ミサキウマ観察会」を実施し、家族連れや大学生など31人が参加しました。

観察会では、講師の串間市教育委員会文化財専門員の秋田優氏にミサキウマの行動等について詳しく解説をしていただきました。幸運にも1週間前に生まれた子馬や雄の馬のけんかを間近に観察することができました。秋田氏の予告のとおり展開する馬のけんかの様子に参加者は驚きを隠せないようでした。自生する希少な植物の説明、ミサキウマの歴史についての解説もあり都井岬の自然の魅力を感
じる事ができる講座になりました。
(福島)



日南海岸のケスタ

モアイ像で有名なサンメッセ日南ですが、モアイ像がよく見える西方の丘の上から駐車場に戻る際に、北側の瀬平崎方面の海岸線に目をやると、見事な地形「ケスタ」が目飛び込んできます。ケスタは一方が緩やかな斜面で、他方が急な崖になるような非対称な断面をもつ丘陵地形で、硬い地層と軟らかい地層とが交互に重なりあって緩やかに傾斜している場所にできます。硬い地層は浸食に強いため地層の上面が緩やかな斜面となっていますが、反対側では硬い地層の断面が急斜面となっています。瀬平崎では硬くて厚い砂岩の板が地形にふたをかぶせた感じです。

ドライブ中にケスタに気づいても、わざわざ車を止めて交通量の多い国道で写真を撮るのは面倒な上に危険でもあります。その点、サンメッセ日南からは視線を遮るものが少ないので、ケスタの観察には絶好のポイントです。
(松田)



宮崎県管内全図



この地図は、「宮崎県管内全図」です。宮崎県が1873(明治6)年に制作を始めました。しかし宮崎県は、1876~83年の間、鹿児島県に併合されました。そのため発行は、宮崎県が再置された後の1885(同18)年6月となりました。

地図を見ると、現在と異なる場所が見られます。例えば、小丸川が高鍋川、一ツ瀬川が佐土原川と表記されています。「郡役所」という現在ではない役所も載っています。また、大淀川をはじめ多くの川に、舟渡しの「渡船場」(渡船場)があったことが分かります。

現在の宮崎県の地図を持って来館し、見比べてみてはどうでしょうか。いろいろなことを発見することができるでしょう。
(佐藤)

袋状口縁を持つ長頸壺

昭和50年に寄贈されたこの壺は、胴に書かれた文字から昭和49年に宮崎市村角町阿波で採集されたことがわかります。

扁平な胴上半部、胴部の台形状の凸帯や胴部と頸部の境の貼付三角凸帯が1条施されるなどの特徴からこの土器は弥生時代後期初頭頃に作られた「袋状口縁を持つ長頸壺」の頸から上が欠損した物と推定されます。胴下半に穿孔があり、埋葬祭祀にでも使われたのでしょうか。

博物館の学芸員も異動します。同じ考古部門に配属されても専門とする領域が違えることが多いので、人が入れ替わると、それまで収蔵庫

の片隅で眠っていた資料に突然光が当たることがあります。今回紹介した壺も寄贈以来35年目にして新たにその価値を見いだされた幸運な資料の一つです。
(石川)

